大森貝塚

大森貝塚とは

大森貝塚は、東京都品川区大井 6 丁目から大田区にかけて存在する、縄文時代後期から晩期（約 4,400 から 2,300 年前ごろ）の遺跡です。アメリカの生物学者であるエドワード・S・モースによって日本で初めて科学的な調査が行われ、発掘調査報告書が作られたので、日本考古学の発祥の地といわれています。

大森貝塚の出土品

貝塚は人々が採集して食べた後の貝殻が積もったもので、貝殻のほかに獣骨・魚骨や植物なども含まれています。大森貝塚からは、貝類や鹿、猪などの骨の他に、模様のある土器、土の板、石器、骨でできた道具などが出土しています。土器の形は様々で、深い鉢型のもの、浅い碗型のもの、釣り手の付いたもの、注ぎ口の付いたものなどたくさんの種類があります。石器は大きめの石の斧、祭りに使ったと考えられる石器（石棒（せきぼう）・石剣（せっけん））があります。骨でできた道具は釣り針、モリ先などがあります。

当時の人々の食生活

当時の人々は、魚介類や海藻、根菜（ユリの根など）などの煮物、干した貝、木の実、ドングリなどをすりつぶして焼いたものなどを食べていたと考えられています。

二つの碑

大森貝塚の発掘を記念する碑は 2 つあります。昭和 4 年（1929）に本山彦一（もとやまひこいち）が中心となって「大森貝塚」と書かれた横長の碑（東京都品川区大井 6 丁目の大森貝塚遺跡庭園内に所在）を建て、翌 5 年には佐々木忠次郎（ささきちゅうじろう）が中心となって「大森貝墟（かいきょ）」と書かれた縦長の碑（東京都大田区山王に所在）を建てました。後に、公文書の発見や発掘調査により、品川区大井に所在する「大森貝塚碑」付近が、明治 10 年（1877）にモースによって発掘された場所であることが判明しました。

日本初の発掘補償金

大森貝塚の発掘にあたって、東京大学は東京府に発掘願いを出しました。発掘の予定地は桜井甚右衛門（さくらいじんえもん）の土地でした。桜井は発掘後の整備代金として 80 円の補償費を請求しましたが、東京府の仲介で 50 円支払われました。これが日本初の発掘補償金です。

モースの後の発掘調査

昭和 59 年（1984）、品川区による調査の結果、縄文時代晩期（約 3,200 年から 2,300 年前ごろ）の貝塚が発見され、貝や獣骨の他に石器、骨でできた道具、土器のかけら、土でできた耳飾りなど多くの遺物が出土しました。またモースが発掘した貝塚も一部確認されました。平成 5 年（1993）には初めて住居跡も見つかりました。

ポートランドと品川区

品川区は昭和 59 年（1984）10 月 13 日にモースの故郷であるアメリカ合衆国メイン州ポートランド市と姉妹都市となり、お互いに友好を深めています。

2_01_01 	**大森貝塚周辺の模型** 明治 14 年（1881）の実測図をもとに制作した模型です。
2_01_02 	**鉢形土器（複製）** 明治 10 年（1877）出土 原資料：東京大学総合研究博物館 国指定重要文化財 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前） モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。食物を蓄えるのに使ったと考えられています。
2_01_03 	**吊手形土器（複製）** 明治 10 年（1877）出土 原資料:東京大学総合研究博物館蔵 国指定重要文化財 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前） モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。吊手に紐を通し、吊り下げて使用します。灯火具または香炉具として用いられました。

2_01_04 	**石器（複製）** 明治 10 年（1877）出土 原資料:東京大学総合研究博物館蔵 国指定重要文化財 縄文時代後期～晩期（約 4,400 ～ 2,300 年前） モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。石を研(と)いだ磨製(ませい)石器です。祭祀に使われた石剣や石棒と考えられていますが、定かではありません。
2_01_05 	**打製石斧(だせいせきふ)（複製）** 明治 10 年（1877）出土 原資料:東京大学総合研究博物館蔵 国指定重要文化財 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前） モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。分銅形に石を打ち欠いて両面加工しています。木製の柄に取りつけ、根菜類を掘り起こしたり、鋭利な部分を刃物として使ったりしたと考えられています。

2_01_06

ニホンジカの角（複製）

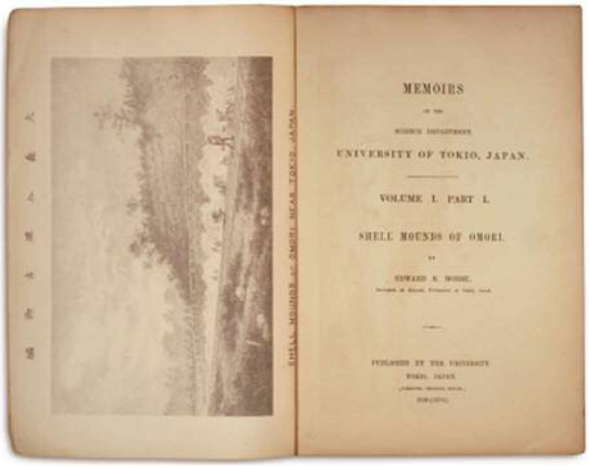
明治 10 年（1877）出土
原資料:東京大学総合研究博物館蔵
国指定重要文化財
縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前）
モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。

2_01_07

深鉢形土器（複製）

明治 10 年（1877）出土
原資料:東京大学総合研究博物館蔵
国指定重要文化財
縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前）
モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。食物を蓄えたり、火をかけて煮たりするのに使ったと考えられています。

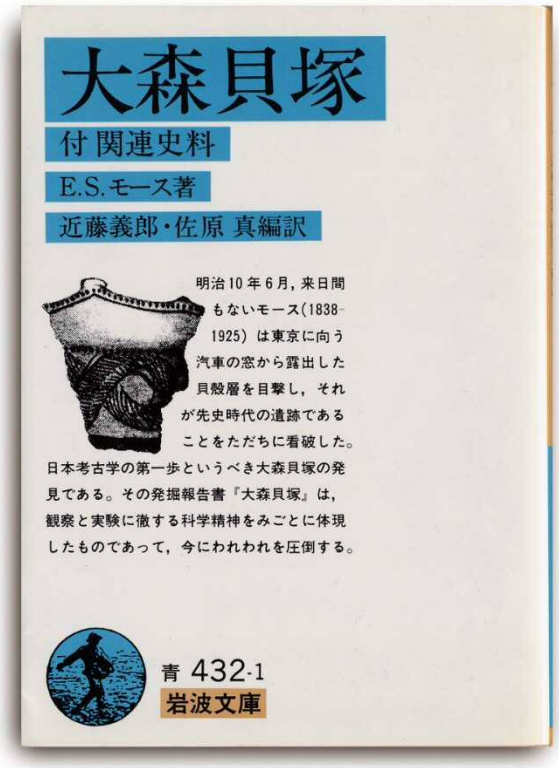
2_01_08



“SHELL MOUNDS OF OMORI”（『大森貝塚』）

E. S. モース　明治 12 年（1879）
日本で初めての発掘調査報告書です。同年、和訳本『大森介墟古物編』（矢田部良吉訳）も刊行されました。

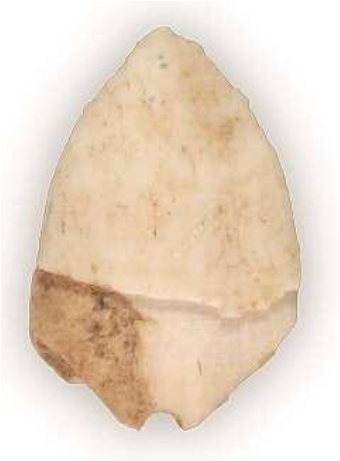
2_01_09



“SHELL MOUNDS OF OMORI”の現代語訳

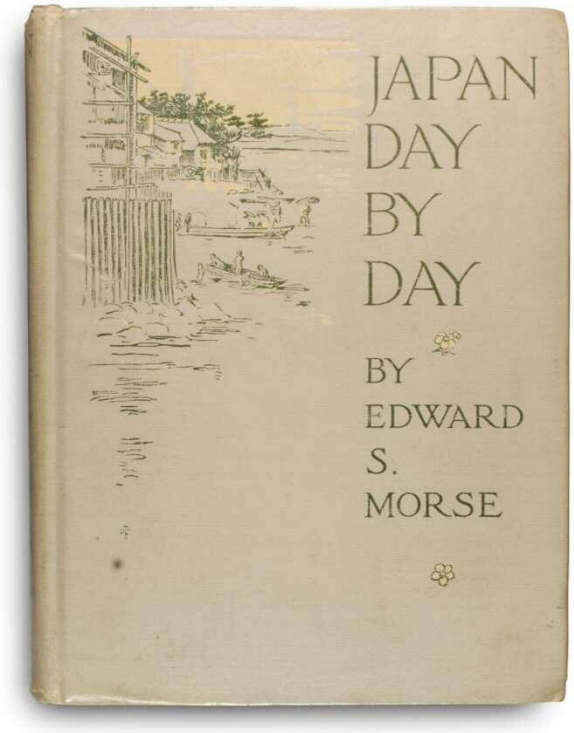
E. S. モース著
近藤義郎（こんどうよしろう）・佐原 真（さはらまこと）編訳
昭和 58 年（1983）

2_01_10 	**ミドリシャミセンガイの標本** ミドリシャミセンガイは腕足類（わんそくるい）の一種で、モースが研究対象としていました。
2_01_11 側面から 裏面から	**浅鉢形土器（あさばちがたどき）（複製）** 明治 10 年（1877）出土 原資料：東京大学総合研究博物館蔵 国指定重要文化財 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前） モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。食べ物を盛るために使われたと考えられる土器です。モースは、出土品のなかで最も精巧な作りであると評価しています。平成5年（1993）の品川区教育委員会による発掘調査では、似た文様の土器片が出土しています。

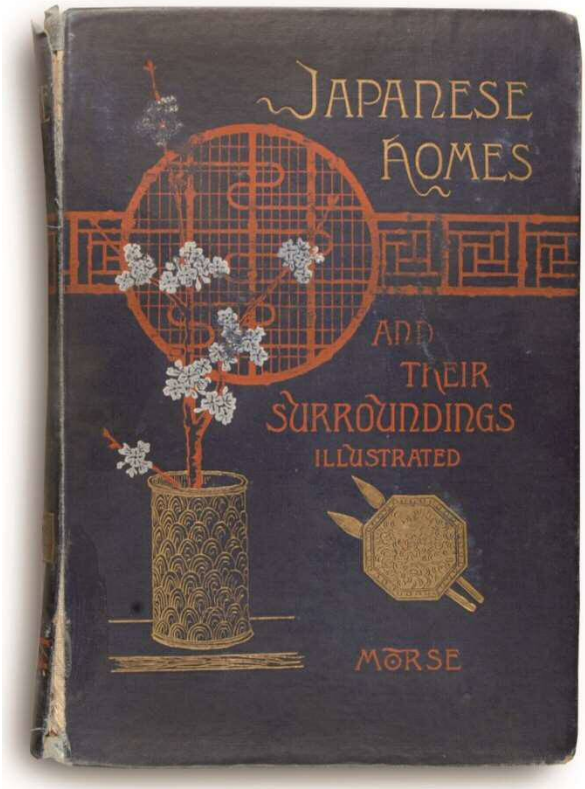
2_01_12 	**イノシシの顎や足などの骨** 昭和59 年（1984）出土 縄文時代晩期（約 3,200 ～ 2,300 年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。
2_01_13 	**イノシシの牙（きば）でできた鏃（やじり）** 昭和 59 年（1984）出土 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前） イノシシの犬歯を磨いてつくってあります。モースが発掘した時にも出土しました。
2_01_14 	**黒曜石（こくようせき）でできた鏃（やじり）** 昭和 59 年（1984）出土 縄文時代晩期（約3,200 ～ 2,300 年前） 狩りに使用した石器（鏃）で、品川区教育委員会の発掘調査で出土しました。黒曜石の産地は東京都の神津島や長野県の和田峠などに限定されるため、大森貝塚の集落の人々は他地域の人々と交流していたと考えられます。

2_01_15 	**注口形土器（複製）** 明治 10 年（1877）出土 原資料:東京大学総合研究博物館蔵 国指定重要文化財 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前） モースが発掘した大森貝塚出土品の複製です。器の縁の片方に注ぎ口を取りつけた痕跡があり、蓄えた水を別の器に注ぐために使ったと考えられています。
2_01_16 	**ニホンジカの角および首や顎などの骨** 昭和59 年（1984）出土 縄文時代後期（約 4,400 ～ 3,200 年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。

2_01_17 	**ニホンジカの足などの骨** 昭和59 年（1984）出土 縄文時代後期～晩期（約 4,400 ～ 2,300 年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。
2_01_18 	**深鉢形土器**（ふかばちがたどき） 昭和59 年（1984）出土 縄文時代晩期（約3,200 ～ 2,300 年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。食物を蓄えたり、火をかけて煮たりするのに使ったと考えられています。

2_01_19  	**“JAPAN DAY BY DAY”（『日本その日その日』）** E.S.モース　大正6 年（1917） 日本滞在中に書いた日記とスケッチをまとめて出版したもの。大森貝塚発掘についても書かれており、モース自身による土器のスケッチが収録されています。
2_01_20 	**小型土偶** 平成5年（1993）出土 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。

2_01_21 	**土製耳飾り** 昭和 59 年（1984）・同 61 年（1986）出土 縄文時代晩期（約 3,200 ～ 2,300 年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。耳たぶに穴をあけ、木の枝などを挿入して穴が拡大したところへ、耳飾りを入れました。
2_01_22 	**浅鉢形土器**（あさばちがたどき） 昭和 59 年（1984）出土 縄文時代晩期（約 3,200 ～ 2,300 年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品で、食べ物を盛るために使われたと考えられる土器です。

2_01_23  	**“JAPANESE HOMES AND THEIR SURROUNDINGS”（『日本のすまい 内と外』）** E.S.モース　明治 19 年（1886） モースが日本滞在中に各地を旅して見聞した、失われつつあった日本の伝統的な家屋を紹介しています。
2_01_24 	**貝輪** 平成5年（1993）出土 縄文時代後期（約4,400 ～ 3,200 年前） 品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。オオツタノハガイ製で、完成する前に捨てられたものと考えられます。

2_01_25

ヘラ状骨器（こっき）

昭和59 年（1984）調査　大森貝塚出土
縄文時代晩期（約3,200 ～ 2,300年前）
品川区教育委員会の調査による大森貝塚の発掘品です。鹿の骨でできています。革をなめすのに使ったと考えられます。